

2016年年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

2016年の年頭にあたり、昨年中に皆様から賜りましたご厚情に対し深く感謝申し上げますとともに、謹んでご挨拶申し上げます。



◆昨年はまさにIoT (Internet of Things)時代が到来し、富士通が提唱する「ヒューマンセントリック・インテリジェントサエティ」の実現を目指して、私たちのデザイン活動もこれまでとは違った段階に到達した一年になりました。ICTをサービスとして提供するためのデザインや社会にとっての新たな価値を創出するためのデザインなど、新たな取り組みが拡大いたしました。

◆2016年はIoTやビッグデータの利活用に加え、A.I.(Artificial Intelligence)やロボティクス技術などのデジタル革新が本格化する年になるでしょう。仕事や生活の様々な場面で人間とこうした技術とがどのように協調したり、役割分担したりするのか、その最適な関係性を描くことがデザインに求められています。その源泉は人間の経験や、行動原理、欲求です。このようなユーザーエクスペリエンス (UX)をベースに、デジタル革新のありたい姿を描き、ビジネスモデルやサービスを考え、それを実現するインタラクションを開発し、必要なプロダクトやシステム、空間のデザインを追求することが重要だと考えています。

◆このような時代、私たちデザイナーにとって特に大事なのは「将来を見通す力」だと考えております。そのために「ビジョンを描く創造力」に磨きをかけたいと思っています。どういふ社会や生活を実現したいのかを、言葉だけではなく視覚化されたビジョンとして描きたい。また、ビジョンを描くだけでなく、それを実現するサービスやデバイスまでを一貫して具現化したいと思っています。そのために、様々な能力を持った多様な人材とデザイナーが手を組み、組織として創造力を発揮できるようにしていきたいと考えています。

◆本年、私たちはお客様やステークホルダーの皆様と一緒にベストな解を考える「共創」スタイルをさらに強化することになるでしょう。お客様とのアイデア創発のための対話やワークショップをはじめ、フィールド調査などで「気づき」を得て、プロトタイピングを行い、富士通のインフラを生かしながらデザイン活動を実践する。デザインプロジェクトの内容によってはベンチャー企業や領域の異なる企業との協業も必要になるでしょう。そのために社会に開かれたオープンプラットフォームでのデザイン開発を増やしていきたいと考えています。

◆皆様には本年もなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

富士通デザイン株式会社
代表取締役社長

上田 義弘